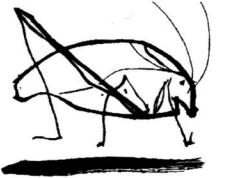


2002/11

ミニ大通 だより

キリギリス

食欲、スポーツ、読書に芸術、おしゃれ。すべてされることはほとんど手つかずのうち、秋はどんどん遠ざかっていきます。出すはずだった便りも、心の中で書いたり消したり、結局ハガキは白いままで年賀状で説びるのが毎年のパターン。「そろそろ山は雪だね」お客様の言葉に心細さがつります。遊びすぎたキリギリスがここにも



2002/12

ミニ大通 だより

青いリボン

カレンダーが残り1枚になると、「今年もいろいろあつたねえ」と世間はそろそろそ仕上げモード。誕生日の私としては「まだ終わってへんや」と踏ん張りたい気分。それはともかく、クリスマスからあ正月と続く休みは、どんな連休より家族の存在を意識します。暮れには久しぶりに会え



2003/01

ミニ大通 だより

時間のトンネル

キーンとした冷氣に包まれて歩く、早朝のミニ大通。足元の雪がキュシキュシと音を立てています。木の上には鳴き交わす鳥たち。立ち止まり、振り返れば、右に左に蛇行しながら続く自分の足跡。ほん



2003/02

ミニ大通 だより

すれちがう

あとからあとから降り積もる雪。ミニ大通もとうとう白い山脈と化しました。人一人が通れる幅だけ、中央が踏み固められています。仕事帰り、この道をたどりながら歩いています。仕事帰り、この道をたどりながら歩いています。仕事帰り、この道をたどりながら歩いています。



2003/03

ミニ大通 だより

口笛吹いたら

最近、口笛を吹きましたか？ 私は、雪が降ったから、すっかりそんな気分を忘れていました。先日、立て続けに口笛の曲を耳にし、俄然、口笛モードになっています。一つは、東京スカパラの「君と僕」。たよりなげな口笛とオルガンの音に、いつか歩いた土手を思い出しました。もう一つは、「ウイルサンバ」。ハーモニカと口笛のステップが軽快なボサノバです。



ミニ大通では赤、黄、橙、茶、緑、重なり合う落ち葉をカラスがぼんやり返し、ズメは両足飛びで啄み、みな懸命に冬への準備です。キリギリスはどうしたのでしょうか。弱りきつてそっともたれかかつた木に、それいいよ、と慰められて安堵の眠りについたでしょうか。ソロップのあの寓話には、キリギリスが蟻を餌にして生き残る、という恐ろしく虫のいい結果もあるんですね。いいのかな？

ある先生が、家族の意味を「思い出の共有」だと喝破されました。ともに時を重ね、折々に懐かしくふり返り合う。それこそが家族。晴れた休日、家族でミニ大通をただ歩く。クリスマスリースに使えそうな木の実を時折拾いながら。同じ風にあたりながら。たつたそれだけのこと

走し、いま、ここに突っ立っています。目の前に手つかずの時間。でもそれは、私の脇をすり抜け、使用済みの過去へとどんどん流れていきます。

以前見かけた黄瀬戸の器に、外国の言葉が彌ら。同じ風景のなかを、わや！という瞬間、双方、もしくは片方が、最も限の幅だけ砂利面には小限の幅だけ砂利面にはみ出し、また何事もなかつたように遠ざかります。その間、両者無

く離れていました。一生は一瞬。立ち止まっていたら、寒さがい上がってきました。まづは肩の力を抜いて、また歩き始めましょうか。どちら様にもよい一年でありますよ(?)。

小さい頃は、女の子が口笛を吹いてはいけません、と叱られました。夜、口笛を吹くと泥棒に入られる、とも聞かされました。まつたくもつて説得力のない教えでした。大人になつてずいぶん経つた今では、平氣で口笛を吹いています。

ミニ大通は口笛の似合う小径。口笛の吹けない夫の三歩前を、ピュールと気持ちよさ気に吹いて歩いてみようかな。その夜は、誰にも、何にも出くわしませんでした。お楽しみはこの次に。

さあ、ミニ大通では、どんなに違ひを体験できるのか？ 残念ながらその夜は、誰にも、何にも出くわしませんでした。お楽しみはこの次に。

イル・ポステイー
ノ
大谷 薫
北4西14
272-7277

イル・ポステイー
ノ
大谷 薫
北4西14
272-7277